

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第54回

キダチチョウセンアサガオ



ナス科の *Datura chlorantha* Hookで、一般にはキダチチョウセンアサガオと呼ばれ、花がダブルの種です。

和名の通り1~2mの高さの木本性で夏~秋にかけて多くの花を開きます。本種は薬用として江戸時代に渡来したようです。アトロピン系のアルカロイドを含んでいますので、チョウセンアサガオやハシリドコロと同様エキスを薬用していたのかも知れません。

アトロピンの薬効は胃腸の緊張を和らげ腹痛を止め、唾液、気管支粘膜、胃液、膵液などの分泌を抑制します。しかし量を過ぎると頻脈、心悸亢進、口渇、瞳孔散大、近接視困難、嚥下困難、頭痛、熱感、排尿障害、腸蠕動の減弱、不安、興奮等の副作用を起こすこともあります。

本画はカーチスのボタニカルマガジンに掲載された1859年の作です。